

# やっぱり青年部！ 3

## 職員朝礼（朝会）がなくなってる！？

ある単組の青年部総会の分散会の中で、「職員朝会がない」という報告がありました。連絡は、職員室の黒板か、メールで送られてくるといいます。他県の様子を聞いてみると、なくなっているところ、あるけど週1～2回というところもありました。特に義務制に多いようです。理由は、「子どもたちが来ているから早く教室に行くため。」と管理職は言うそうです。その考えの背景には、子どもたちと少しでも一緒に過ごすべきだ。子どもたちに学校で何かあったらいけない。ということがないように思えます。「何かあったら困る」という考えで、子どもたちの失敗から学ぶことや自主性を奪っていないでしょうか。



その分散会の参加者は、「職員の顔を見るのは、子どもたちが帰ってから」「隣の席の人が着ていることもわからない」といいます。まさに、教職員が孤立した中で、日々過ごしています。職場の仲間と話すことなく、多くの方は教室で一日を過ごす人が多くなっています。自分の実践が子どもたちにとってどうなのか、行き詰まりや悩みをいつ、誰にいうべきなのか。他の人、他の職種の間がどのような働き方をしているのか。職場の中一人ひとりが孤立していく可能性は大きいといえます。

それだけに、実践や悩みを交流することができる組合の役割、そして「職場の仲間と語り、思いを共有していこう！」という青年部の発信の意義は益々大きくなっています。そのような視点からも、やはり組織拡大は必要です。職場の仲間のために、そして、子どもたちのためにも！自信を持って声を掛けていきましょう！！

## 各単組青年部大会（総会）

### 各単組からの報告より （6月実施のアンケートより）

**新潟高教組** 部活動問題についてグループでの討議を行い、部活動に対する思いはそれぞれことなるものの、回復や手当の面では統一した要求ができることが確認できた。グループ討議を行うことで、他校

の人と話し合うことができ、「また来たい」との声も寄せられた。

**富山県教組** 少ないメンバーの中で、自主的に支部長を引き受けようという意識を持った先生達が、いい雰囲気を作ってくれた。

**石川高教組** 総会では「年齢制限の見直し」が重要な提起となりました。廃止論ではなく、存続のための「年齢引き上げ」案だったのですが、部員の関心は想像以上に低いものでした。



### 福井県教組 大会で

は、滞りなく運動方針など承認された。青年部細則の一部見直しがされた。大会後、休暇などの権利に関する学習会を行い、その後グループディスカッションを行った。「改めて権利を知ることができてよかった。」「同年代の仲間と日頃の思いを語り合えてすごくよかった。」といった感想であった。

### 福井県教組 6月9日に第1回青年部委員会、6月30日に青年部定期総会を開催しました。

どちらも、青年部同士の「つながり」を大切に、参加したくなるような組合活動をすすめていくことを確認しあうことができました。

### 滋賀県教組 学習会とセットで実施しました。

みんなのパワーをもらって帰れることに幸せを感じる。やっぱり、参加しないと何も始まらない。県の青年部が集まって話をしたり、いろいろな支部の青年部の方々と交流したりする機会がなかなかないので来てよかった。

### 奈良教組 討論の場では、各郡市単組の青年部の取り組み報告や、地道な声かけによってなかまが増えたという報告など、厳しい状況の中元気の出る意見が印象的だった。

### 大阪教組 横のつながりが課題。ひとりで悩みを抱えていたり、どうしていいかわからず困っているのに、だれに相談していいかわからない。教研的なものでの要望も多かった。

### 兵庫県教組 これから1年間がんばろうという雰囲気で満ち溢れ、いい会になりました。質疑も多く出て、「初めて支部の青年部長をするので、本

部がどのような思いで提起しているのか教えて欲しい」という質疑も出されました。

初めての支部青年部長になる人がほとんどなので、討論というよりも意見発表を全代議員にひとり3分程度で語ってもらいました。大量採用の時期に入り、青年部が多くなりすぎて顔と名前が一致しない。統廃合や市町合併で青年部が少なくなり、活動に活気がない。集まらない。組合員の意識と役員の意識に隔たりがある。役員を複数年で経験する中で、運動の継続をはかっている。支部青年部独自で、平和行動に参加している。日政連議員を表敬訪問し国会見学会を支部青年部でおこなったなどの報告が出された。

### 鳥取高教組 数年の講師経験を有する若年臨採者が多数雇用を打ち切られたことに関して、どのように雇用確保を働きかけていくのか、雇用を打ち切られながらも教職をめざす人たちの繋がりをいかにつくりあげていくのか。採用試験の応募書類の問題点を継続して県教委に追及していくこと。少数職種に対するあからさまな労働条件の切り下げに対して、いかに青年部層全体の課題として共有し、分断攻撃に対抗していくのか。青年層の組織率が年々下降していく中で、分会での働きかけを中心にしていかに組織拡大を行っていくのか。などがだされた。

### 岡山県教組 支部によっては温度差があり、それをとりまとめていく立場にある県教組としては、調整を上手にしていく必要があると感じた。



### 広島県教組 声をかけていくことで、加入につながるという話が目立った。

### 長崎県教組 執行部及び各支部青年部長も新メンバーが多

くみられたので、まずは代表者会

に出席している青年部員の自己紹介や職場実態交流を行った。

**大分県教組** 青年部員数の減少を受け、活動の見直しをしている、という報告が多かった。しかし、活動の厳選、縮小を求めすぎて活動が停滞し、青年部の存在が薄れてきてしまえば意味がないので、今後の課題である。

平和カレンダーを有効利用したいという声が多く出た。また、支部ごとでとりくみを発表しあうことができた。平カレは掲示することが最終目標ではなく、「平和教育の日常化」をめざした取り組みで自分たちが平カレを利用しているというところを語り継ぐ必要が出てきた。

**大分高教組** 質疑・意見のあとに、討論を設定しました。少人数職種の仲間の声や、青年部員数の少ない分会の悩み、それぞれの職場状況の問題点など多くの意見が出されました。青年部の行事やとりくみの多さに負担を感じる事もある反面、集まることで楽しさや有意義さを感じる、分からないことがたくさんあるので学習の機会が大切だという意見などもあり、全体的に青年部の元気な活動が組合全体を活性化するのだという雰囲気作りができました。

**鹿児島高教組** 年々参加者が少なくなっており、このままでは青年部活動が出来なくなるのではないかと心配しています。討論等では、「教職員評価制度」及び「賃金」について意見が多く出ました。

**集まっています！青年部**

**アンケートのご協力  
ありがとうございました。**

7月8日の青年部委員会に向け、アンケートを実施し38単組より回答をいただきました。ご協力あ

りがありがとうございました。（これを見て、「まだ提出していない」と思われた単組は、まだ受け付けますのでご協力を！）

アンケートや送られてきた報告や単組の青年部ニュースをもとに、今回から、「集まる」ことをテーマに、各単組のとりくみを紹介します。多くの単組からのとりくみの報告をお待ちしています！

### 九州ブロック青年部長会の様子

九プロから写真が届きました。九州ブロックでは、年4回、青年部長が集まって、青年教育労働者の集いのことや単組のとりくみなどの情報交換を行っています。送られた写真は、そんな議論の場ではなく、その後の交流会の様子でしたが...



## 年度はじめのとりくみ

### 近畿ブロック

#### 滋賀県教組

#### ボウリング大会&交流会を開催（5月）

各支部からの参加がありました。支部対抗ではなく、混合でチームを組んだので、ボウリングの合間に職場での様子など交流することができました。

#### 総会後に学習会を設定（6月）

「子どものこと」「授業のこと」「職場のこと」の3つの分科会で話し合いました。30分間という短い時間だったので、うち解けたところに時間がきてしまい、十分に話し合うことができたとはいえませんが、短い時間なりに良い話し合いができました。

#### 生活実態アンケート（6月）

秋の青年部交渉に向けて、青年部の抱える課題をつかむために実施しました。

#### 奈良教組

#### 新採オルグを実施（4月3日）

新採の辞令交付式が4月3日に行われ、小・中学校及び県立学校あわせ136名の新採教員が教育研

